

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

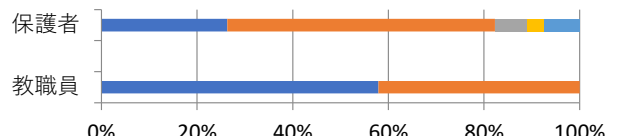
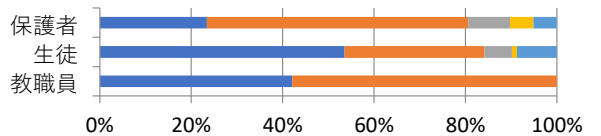
①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重

2 道徳・心の教育の充実

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



考察

1の項目で児童の肯定的な値の合計が7%減少、教職員の「そう思う」も16%減少している。教職員が自信をもって児童との関係づくりができておらず苦慮している状況が伺える。2の項目は、昨年度とほぼ評価は変わっておらず、高水準を保っている。心かやげ月間での取り組みや授業参観での道徳授業の一斉公開等の成果が評価されたと考える。

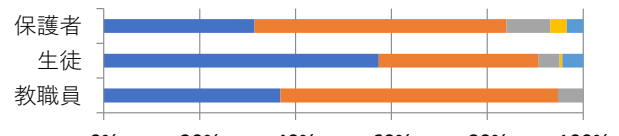
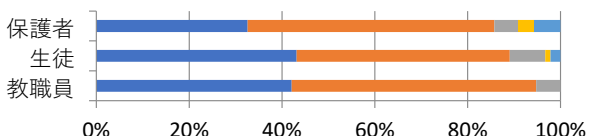
②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上

4 タブレット端末活用

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



考察

3の項目で、保護者、児童、教職員、全てにおいて高水準を維持している。4の項目では、教職員、児童において消極的な数値が微増している。児童や教職員においてタブレット端末の使用が普及し、十分慣れてきているが、児童の知的好奇心を刺激するための指導者による有効的な活用法を検証し、活用次の段階へ進める必要性を模索する時期がきていると考えられる。

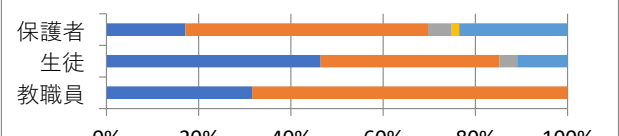
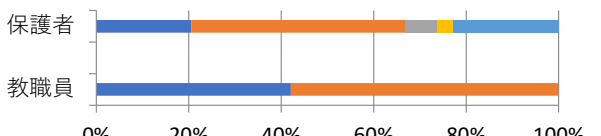
③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

6 共生社会を担う人材の育成

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察

③の5及び6の両項目において全ての回答対象で低下傾向にある。1年を通しての特別支援学級臨時教員の未配置が大きく影響していると考えられる。また、児童及び保護者の支援のニーズが多様化、複雑化していることの影響が数値へと反映されていると考えられる。また、保護者の「わからない」の回答が多いことから児童、保護者への共生社会に向けての教育の啓発も推進する必要がある。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察</p> <p>7の項目においては、保護者の消極的な回答が増加傾向にあり、今年度発生した救急搬送の事案や交通事故による影響が考えられる。児童の回答は昨年度と変容がないので、保護者への安全教育の啓発とともに協力体制を継続して整える必要がある。8の項目においては、コロナ感染症が落ち着き、学校行事やPTA行事がコロナ禍以前に戻りつつある中、アフターコロナの家庭や地域との連携協力のあり方を考える必要がある。</p>	

⑤ 本校の教育

9 家庭学習の定着	10 タブレット端末のルール
先生方は、積極的、計画的に家庭学習に取り組むように指導をしていますか。	先生方は、家庭と連携しゲーム、タブレット端末の使い方のルールの指導ができていますか。
<p>考察</p> <p>9の項目においては、保護者と児童の消極的な回答が増えている。タブレット端末を活用した宿題を出すことにより、保護者の目から見て、本当に家庭学習をしているのか疑問であるという声もあがり、その影響が伺える。10の項目においては、児童の数値の変容はないが、保護者の数値が低下傾向にあることからタブレット端末活用における学校と保護者の共通理解を再度図る取組が必要である。</p>	

⑤ 本校の教育

11 早寝早起き朝ごはん
先生方は、「早寝 早起き 朝ごはん」の推進に組織的に取り組んでいると思いますか。
<p>考察</p> <p>11の項目では、「早寝早起き朝ごはん」を推進する「すこやかカード」をPTAと協力して推進しているが、保護者、児童ともに低下傾向であることから、児童への意識づけなど実施方法等の見直しの時期に来ていると考えられる。遅くまでスマートフォンやゲームをして生活習慣が整わないという保護者の声もあがり、児童、保護者への望ましい生活基盤づくりの啓発をはじめ、対応策を検討する必要がある。</p>

来年度の具体的な取組について

学校の活力を高めるため、以下の3項目の相互作用を意識して組織的に実践していく。

- 生活の基盤づくりの推進のため、すこやかカードのマンネリ化を防ぎ、時期に合わせた実施方法の見直しを行う。
- 授業づくりと学級づくりの相互作用を図り、児童と教職員、児童同士のリレーションを高めるための教職員のファシリテーション力向上を図る校内研修を実施する。また、家庭と連携した基礎学力向上の取組の見直しを行う。
- 本年度の課題共有や保護者啓発のため、PTA総会、年2回の学級懇談会、PTA教育講演会、保護者教育相談において保護者と児童、教職員を巻き込んだ取組にするなど有効活用を実施するとともに、HP更新及び花園小学校メールの定期配信を継続して実施する。

学校関係者評価

第2回学校評議員会の中で、次のご意見をいただいた。

- 保護者が「わからない」の回答が多い項目においては、学校の情報発信が届いておらず、回答しにくいであろう。学校からの情報発信の工夫が必要である。
- 保護者に具体的な目標を年度当初や懇談会等に発信し、学校と家庭とで共通理解を図りながら教育活動を進めてほしい。
- 教職員の消極的な回答は、ご自身の指導に自信の無さが伺える。管理職や職員どうしのサポートが必要である。
- タブレット端末では、すぐに答えを導きだせるが、もっと深く考えたり試行錯誤する経験を子どもたちに持たせてほしい。